

生きる喜びを
Let's create Iwate as a place to live happily.
感じられる岩手に!

岩手県議会議員

いわて
県政
レポート
2024
秋号

ハクセル 美穂子

MIHOKO
HUXEL

ハクセル美穂子プロフィール

昭和50年3月6日 零石町生まれ
◎家族／アメリカ人の夫、4人の息子（高2、中3、中2、小5）
◎職業／英会話教室経営
◎趣味／読書、フラワーアレンジメント、散歩、博物館めぐり
◎学歴／零石町立御明神小学校〔S62卒〕・零石町立零石中学校〔H2卒〕・
盛岡第四高等学校〔H5卒〕・岩手大学農学部〔H9卒〕
◎経歴／平成9年 零石町役場入庁
平成17年 夫とともにアメリカへ移る
平成18年 （株）Shady Grove Intl設立 代表取締役就任
平成27年 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区初当選
令和元年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区2期目の当選
令和5年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区3期目の当選

f ハクセル美穂子
オフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/mihokopage/>



2024.2-3月 2月定例会

2024年2月21日、2度目の代表質問に登壇しました！

2024.6-7月 6月定例会

2024.7月18～19日 総務委員会現地調査（青森県青森市ほか）

今回の現地調査では、久慈市山形町の（有）谷地林業さんのバイオ炭を活用した炭素貯留によるJクレジットの創出等の取組みやTOHOKU DX大賞2023製品・サービス部門にて特別賞を受賞した介護サービスのシステム化の取組みを調査いたしました。

いずれも30～40代の若手経営者が新しい仕組みを活用した先進的な取組みであり、やはり地方の活性化には、若者が定着しチャレンジがしやすい環境の整備が大切だと感じました。岩手県の若者支援にこのような視点を取り入れるよう働きかけていきます。



東北DX大賞特別賞を受賞した機能訓練メニュー自動化ソフト「4MS」の説明を聞く

2024.8月1～2日 東北電力東通原発視察研修（青森県むつ市ほか）

裏面コラムで詳しくお伝えします！

2024.5月31日 東日本大震災津波復興特別委員会現地調査（住田町ほか）

今回は、住田町、大船渡市、陸前高田市の気仙エリアの復興状況を調査しました。

住田町にある「イコウェルすみた」は、震災時に建設された住田型仮設住宅を活用して建設されたワーキング用の施設です。都市部から仕事をしながら休養をする場として活用されるとともに大学生の調査研究の拠点としても利用されていました。東日本大震災の記録と記憶を承継する場として大変ユニークな利活用方法であり、今後ともたくさんの方々が訪れる施設として発展してほしいと感じました。



「イコウェルすみた」に保存されている震災時に使用した住田型仮設住宅



「イコウェルすみた」サテライト・オフィス
内部の様子

皆さんのが議会にはあります!

岩手県議会は、先日9月定例会が終わり、12月定例会に向けて準備が始まっています。

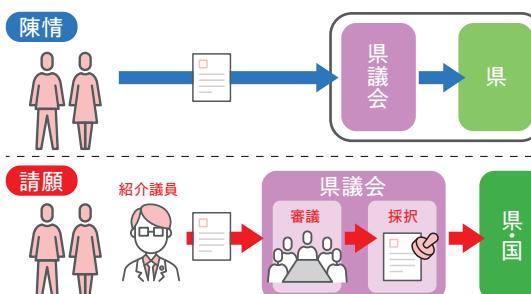
9月定例会では、毎年、前年度決算内容を審議する【決算特別委員会】が開かれます。

岩手県議会の決算特別委員会では、決算総括質疑という知事に対して直接質問ができる機会を設けています。この決算総括質疑の質問時間は、会派を構成する人数の割合で決まります。今期は、「自由民主党」と「希望の党」が会派人数同数のため、第一会派が2つありますので、それぞれ37分間の質問時間が割当てられました。所属議員数5名の私たち「いわて県民クラブ」は15分の質問時間で、今回は会派代表の佐々木努議員が総括質疑を担当しました。

このように県議会では、会派の人数によって質問の機会が増えたり減ったりすることがあります。そのため、県政への思いを同じくする議員同士が集い活動する会派の人数を増やしていくことは、議会活動の中でも重要なポイントの一つなのです。

今期、私は、会派の政策審議を担当しています。

政策審議担当の主な仕事のひとつが、発議案調整会議で意見書の取りまとめをすることです。発議案調整会議に持ち寄られる政策課題は多岐にわたるため、一つ一つ



政策の内容の精査と勉強を重ねて議論を進めていきます。特に、国へ提出する意見書は、全会派が同意して意見を一致させ、岩手県議会として提出することにより、より力強い意見として国や関係機関に伝えることができるため、十分な議論を重ねて決定しています。

また、請願・陳情を審査する担当もしています。

請願・陳情とは、県民から国や県に対して要望や意見を伝えることができる大切な制度です。請願は県議会議員の署名が必要であり、陳情は県議会議員の署名は不要であるという違いがあります。議員の署名を得られた請願を議長に提出すると、その定例会中に関係する常任委員会において議会として意見を採用するかどうか議論されます。委員会の中で過半数の議員が賛成した場合に採択

とされ、本会議で県議会議員全員に対し、委員会で決まった内容に賛成か反対か意見を求めます。委員会から出された採択の決定に本会議でも半数以上の議員が賛成すると、採択された請願の内容を【意見書】という形にして国や関係機関に送付します。

例えば、先の6月定例会で総務委員会(私が所属)にかけられた「社会保険制度の整備、子育て施策、ふるさと振興の推進等のための地方財政の充実・強化を求める請願」も常任委員会と本会議ともに採択され、関係省庁に対し意見書を送付しました。

政策について議論を進めていく過程の中でなかなか意見の一一致をみないこともあります。民主主義という仕組みの難しさを感じることも多いのですが、今生きる私たちだけではなく、将来の岩手に生きる県民の皆さんにとって利益のある政策を進めていくことを目標に、日々勉強し議論を交わしています。

議会のホームページの中にはどんな意見書が国に送られているのか見ることができますので、ぜひ一度覗いてみてください!



岩手県議会
ホームページ



議員提出議案
(意見書)はこちら

2024秋号コラム COLUMN

考えてみよう! エネルギーのベストミックスとは…

毎日の生活に欠かせないものって何でしょう?
車、スマホ? それとも水、電気、ガス? いろいろありますね。

私たちの社会生活や産業活動に欠かせない施設や設備、サービスなどをまとめて「インフラ」(英語の【infrastructure:インフラストラクチャー】、「基盤」という意味をもつ言葉が語源)といいます。このインフラは、電気、ガス、水道のみならず、道路、鉄道、電話やインターネット、病院、公園等、多岐にわたり、私たちの毎日を支えています。

さて、私たち「いわて県民クラブ・無所属の会」は、今年8月に所属議員5名で青森県六ヶ所村にある日本原燃(株)と東通村にある東北電力東通原子力発電所を訪問、原子力発電所内でどのような安全対策がなされているか等、実際に現地で調査を行いました。



日本原燃(株)PRセンターにて



東北電力(株)東通原子力発電所の所長とともに

私たちは、まず初めに青森県六ヶ所村にある原燃PRセンターに向かいました。原燃PRセンターは、日本原燃(株)が行っている原子燃料サイクルについてわかりやすく説明してくれる施設です。再処理工場の内部の仕組みや放射線の性質を学ぶだけではなく、お子様向けの実験教室や工作教室もあり、家族で科学を学ぶことができる施設でした。

世界のウラン鉱山でとれるウランのほとんどが核分裂しにくい【ウラン238】であること、核燃料棒の中身の95~97%がこの【ウラン238】でつくられていること、核分裂しやすい【ウラン235】は3~5%程度の含有量ですが、自然界のウラン鉱石には【ウラン235】が0.7%しか含まれていないため、核燃料として使用する場合は「濃縮」させなければならぬこと等を知りました。また、使用済みの核燃料棒をどのように分けて再利用するのか、高レベル放射性廃棄物の製造工程や埋設場所の選定理由等もわかりやすく説明されており、安全性を確保するためどん

な工夫をしているのか知ることができました。

次に、東通村にある東北電力東通原子力発電所を訪れました。東通原発は、2005年に運転を開始した沸騰水型原子炉(BWR)の原子力発電所です。2011年の東日本大震災津波の際は、定期点検中だったため発電を停止しており、地震や津波による被害はありませんでした。しかしその後、一度も発電を再開することなく、現在も発電を停止した状態が続いている。発電を停止している状態であっても、国の原子力規制委員会による新規制基準適合性審査への対応、例えば、非常用電源車の配置や冷却水用プールの建設・維持管理などを重ね、安全対策を講じています。一日も早い再稼働に向けて、発電所関係者一丸となって取組みを進めている様子を目の当たりにし、私は大きな信頼感を持ちました。

実は、現在の技術力では、電気を貯めるということはできません。私たちが毎日使用している電気は、使用するその時に作って配送しなければならないのです。このた



PRセンターから見える日本原燃の施設外観



高レベル核廃棄物がなぜ地層処分されることになったのかが説明されています



ウラン濃縮の仕組みを解説していただきました



常に放射線量が測られ、安全性を確認しながら発電事業を行ってきました

め、各電力会社は、使用される電力量を毎日予測し、その時に必要とされる電力を的確に発電、供給しています。日々、私たちが何気なく使用している電気は、このような努力を経て、今この瞬間も届けられているのです。

再生可能エネルギーは、自然の力をを利用して発電を行うものですが、太陽光発電は、曇りの日にはほとんど発電されず、私たちの需要にマッチしないこともあります。需要に合わせた発電が難しいことが再生可能エネルギーの特徴のひとつですが、そんな時はどうしているのでしょうか?

現在、東北電力(株)では、電力需要に合わせて火力発電所を稼働させ、再生可能エネルギーの過不足を調整しているそうです。火力発電を臨機応変に稼働させて電力の需給バランスを保っているため、再生可能エネルギーを利用する場合は同規模の火力発電能力をバックアップとして確保しなければなりません。もちろん、火力発電には化石燃料(石油や天然ガス)が使われていますので、化石燃料の価格が上がると必然的に電力価格も上がってしまいます。現在課題とされている電力料金の高騰は原油価格の高騰と密接な関係があるのです。

日本は1970年代に起こったオイルショックを経て、代替エネルギーとして原子力の導入を推進してきました。福島第一原発の事故により、原子力発電所の安全基準が見直され、これまで長い間、原子力発電所の再稼働が認められず、再生可能エネルギーへの転換が図られてきました。しかし、原油価格の高騰が電力料金に大きな影響を及ぼしている昨今、高いレベルで安全性が確認された原子力発電所は利活用し、電力料金の高騰を防ぎ生活の安定を図ることが大事ではないでしょうか。再生可能エネルギー、化石燃料、原子力、いずれか一つに頼るのではなく、いずれかを排除するのではなく、それぞれの特徴と強みを生かし、ちょうど良い電力生産バランスを保つこと、いわゆるエネルギーのベストミックスによる電力価格の安定を図ることが大切だと私は考えています。

日本国内では非が問われ続けている原子力発電所と関係施設、どのような工程で電気が作られているのか、どのように核燃料が管理されているのか等、私が実際にこの目で見て感じたことを皆さんにお伝えすることができます。ぜひ、皆さんも青森県下北地方を訪れる際には、原燃PRセンター等の施設にも立ち寄ってみてください。新しい学びがあるはずです。

豊かな岩手県、豊かな東北の将来を創るために、これからもエネルギーのベストミックスについて一緒に学び、考えていきましょう!

